川越道の宿場町として栄え、鎮守や道中安寧を目的とした「社」が数多く残るエリア

常盤台散策コース

（中板橋駅←→上板橋駅）6.0km

茂呂遺跡

昭和26年3月「オセド山」と呼ばれる独立丘陵(小山)を通る切り通し道路の断面で、石器などが発見されました。その後、同年7月に発掘調査が実施されました。旧石器時代の調査としては群馬県岩宿遺跡に次ぐ全国2例目の調査となり、縄文時代より古い旧石器時代の文化が、日本に普遍的に広がっていることが分かりました。また、この調査で出土したナイフ形石器は、非常に特徴的な形態をしていることから「茂呂型ナイフ形石器」と名づけられました。遺跡は昭和44年に、遺物は平成11年に東京都の文化財に指定されています。現在は東京都の公園用地となっていますが、樹林保護のため立ち入ることはできません。

所在地　小茂根5-17

「いたばしのむかしばなし」より～下頭橋（げとうばし）の六蔵（ろくぞう）さん

川越街道が石神井川をこえるところに架かる橋を「下頭橋」といいます。むかしこの橋は、木で造られていて、大水が出るたびに流され、人々は不便な思いをしました。この橋のたもとには、ひとりの年老いた乞食（こつじき）が住んでいました。乞食は橋を通る人たちにふかぶかと頭を下げ、お金を恵んでもらっていました。乞食は人々から「六蔵」と呼ばれていました。六蔵さんは子どもたちにからかわれても決して怒ったりすることがありませんでした。

ある冬の朝、六蔵さんは冷たくなって死んでいました。遺体を葬るために村人たちが六蔵さんの体を持ち上げると、その下からたくさんのお金が出てきました。なんと、六蔵さんは今まで恵んでもらったお金を貯めこんでいたのです。村人たちがこのお金の始末に困っていると、旅のお坊さんが通りかかりました。話を聞いたお坊さんは「六蔵さんは世の役に立ちたいと願っていたかもしれない。このお金で立派な橋を架けて霊を弔ってはいかがかな。」と話され、村人たちはみんなこれに賛同しました。六蔵さんの遺体はお坊さんの読経のもと、村人たちにより手厚く葬られました。その翌日から工事が始まり、お坊さんの指揮のもと村人たちが力を合わせて働き、やがて立派な石の橋が完成しました。人々はこの橋を「下頭橋」と名づけたということです。

「いたばしの歴史に残る50人」より

根津嘉一郎（ねづかいちろう）（初代）

写真提供:東武鉄道(株)

万延元年(1860)～昭和15年(1940)。甲斐国に生まれた実業家です。大正3年、東武東上線の前身である東上鉄道の社長として池袋・田面沢間を開業し、同9年に東武鉄道と合併しました。同13年に成増に娯楽施設の兎月園を開き、昭和10年に常盤台住宅の開発にかかわるなど、区域の発展に足跡を残しました。

START!

東武東上線 中板橋駅

6分

①専称院 [仲町44-1]

3分

②轡（くつわ）神社 [仲町46-3]

江戸時代には轡権現と呼ばれていました。名前の由来については、徳川家康が領国をめぐった際にこの地で馬の疲れを休め、後に残された"くつわ"を祀ったからとも、馬蹄を祀ったからとも言われています。子どもの守り神で、特に百日咳などに霊験のある神として信仰を集めています。

6分

③大山福地蔵 [大山54]

約200年前の文化・文政の頃、川越街道(日大病院入口交差点付近)にお福という行者が来て、街道筋の人々の難病苦業を癒し、大山周辺の人々に慕われていました。大山に住み余生を衆生に尽くしたため、地元大山の人にお福地蔵として祀られています。

9分

④豊敬稲荷神社 [弥生町12]

6分

⑤下頭橋と六蔵祠 [弥生町52-1・南常盤台1]

下頭橋は、寛政10年(1798)に石橋に架け替えられました。名の由来については、諸説があります。一つ目は、旅僧が地に突き刺した榎の杖が、やがて大木に成長した"逆さの榎"がこの地にあったから。二つ目は、川越城主が江戸に出入りする際、江戸屋敷の家臣がここまで来て頭を下げて見送り出迎えたから。三つ目は、橋のたもとで旅人から喜捨を受けていた六蔵の金をもとに石橋が架け替えられたからというものです。また、六蔵祠はこの六蔵の遺徳を讃えて建てられました。

6分

⑥長命寺 [東山町48-5]

9分

⑦南常盤台天祖神社 [南常盤台2-4-3]

御祭神は天照大神で、創建年代は不詳です。江戸時代には神明社と称し、旧上板橋村の鎮守となりました。明治6年に天祖神社と改称し、今日に至ります。境内の弘化3年の狛犬の台座にある円形の傷は、昭和20年6月10日の空襲による爆弾の破片による被弾の跡です。

3分

⑧平安地蔵 [南常盤台2-11]

9分

⑨氷川神社 [東新町2-16-1]

旧上板橋村の鎮守である神社です。創建年代は不詳ですが、現在の本殿は嘉永5年(1852)に改築されました。また、江戸時代の石灯籠や奉納額があります。境内の郷土資料館には、旧上板橋村の農機具や生活用品、生産用具など1000点余を所蔵し、板橋区の文化財に指定されています。

すぐ

⑩旧上板橋村役場跡地 [東新町2-36]

3分

⑪安養院 [東新町2-30-23]

真言宗豊山派の寺院で、北条時頼が創建したという寺伝が残っています。境内の鐘楼に掛かる銅鐘は、昭和18年に旧文部省より重要美術品の認定を受けたため、戦時中の供出を免れました。庫裡は、旧前橋藩松平家の本邸を昭和4年に移築したものです。なお、ここには板橋七福神の弁財天が祀られています。また、豊島八十八ヶ所霊場の一番札所ともなっています。

12分

⑫茂呂遺跡 [小茂根5-17]

6分

⑬御嶽神社 [桜川1-4-6　城北中央公園内]

3分

⑭桜川緑道 [桜川1・3丁目境]

3分

⑮五本けやき [上板橋1-19]

昭和初期の川越街道の拡幅工事の際、旧上板橋村村長であった飯島弥十郎が屋敷林の一部のけやきを残すことを条件に土地を提供しました。こうして残された屋敷林が5本残り、「五本けやき」とよばれるようになりました。その後、枯死した2本を植え替え、今では、川越街道上板橋付近のランドマークとなっています。

3分

⑯子育て地蔵 [上板橋2-2]

3分

東武東上線 上板橋駅

GOAL!

いたばしまちあるきマップ

常盤台エリア

⚠ 神社・仏閣の見学・拝観にあたっては、マナーを守りましょう。